

保育者養成・教員養成における専門性に関する研究

前田 舞子 (Maiko MAEDA)

【研究の背景と目的】

小1プロブレムへの対応や幼保小連携がますます求められる状況の中で、保育者と小学校教員が互いに歩み寄り、協働して子どもたちの生活の連続性や、地域における保育・教育の充実を図っていくことが急務である。しかしながら、保育者養成と教員養成は、近接領域ではあるものの、それぞれ固有の専門性を有するため、二つの領域において伝達される知識や技能はそれぞれの特性をもつ。

そこで本研究において注目するのが、保育者養成および教員養成に関わるメディアである。それぞれの専門性に関わる領域上の特性は、養成段階にある学生あるいは専門職者が必要とするメディアに反映されていることが予想される。保育者養成および教員養成に関わる様々なメディアが、両者の専門性にどのような影響を与えているのだろうか。

上記を解明するための足掛かりとして、本研究ではまず、『教育雑誌』に関する研究レビューを行い、近年どのような研究が進められているのか、その動向を確認することを目的とした。

○共同研究者・協力者 増田 圭佑 (鳥取短期大学 幼児教育保育学科)

【研究の経過と内容】

本研究で着目するのは、「保育者」「教員」それぞれの専門性、という広い枠組みではなく、そこへ繋がる養成段階「保育者養成」「教員養成」における専門性である。そのような視点から、両者に関わるメディアを調査すると、以下の表1・表2に示した教育雑誌が該当した。

教員養成と異なり、保育者養成は養成校と国家試験という二つの養成形態が存在することもあり、保育者養成に関わる雑誌はほとんど見られず、むしろ「保育者になった後」のスキルアップに関わる雑誌が大半であった。そのため、これらを同一の俎上に載せて比較検討することは、極めて困難であると判断した。したがって、本研究では、『教育雑誌』に焦点を当て、近年どのような研究が進められているのか、その動向を確認し、それぞれの研究内容も含めて検討していく方向性をとった。

表1 教員養成に関わる雑誌

雑誌名 (50音順)	出版社
教育	旬報社
教育研修	不昧堂出版
教員養成セミナー	時事通信出版局
教職課程4	協同出版
教職研修	教育開発研究所
初等教育資料	東洋館出版社

表2 保育者養成に関わる雑誌

雑誌名 (50音順)	出版社
エデュカーレ	臨床育児保育研究会
月刊保育とカリキュラム	ひかりのくに
ちいさななま	全国保育団体連絡会
ほいくあっぷ：保育の質につながる ワンテーマ・マガジン：more fun& pride	学研教育みらい
保育ナビ	フレーベル館
ポット：新しい保育サポートマガジン	チャイルド本社
幼児と保育7	小学館

『教育雑誌』とは、小林（2009）によれば、「教育政策や学校教育などの『教育に関する』情報を取り扱い、学校教員や教育学研究者を対象とした雑誌」である。ただし、「教育雑誌」の捉え方や範疇は一定のものではなく、その分類には更なる模索が必要であることが示されている（小林2009: 42）。そこで本研究では、CiNii 検索データベースを用い、『教育雑誌』をキーワードとして、過去10年間（2010年～2020年）の文献を検索し、研究動向を検討することとした。検索の結果、ヒットした文献は229件であった。

上記の内、学術論文には該当しない「主要教育雑誌記事索引」「学会要旨」「教育情報誌」は、今回の検討対象からは除外した。また、尾高／丸山論文「戦後改革期に教科書会社から刊行された教育雑誌」(1)～(18)については、2010年以前からの内容的な継続が見られ、年代を遡る必要があるため、今回の検討対象からは除外した。以上の結果、本研究における検討対象論文は、51件となった。各々の著者や論文名等に関しては、今回の報告書（概要版）では割愛する。

【研究結果】

(1) どのような研究手法で『教育雑誌』を分析しているのか

ここでは、本研究で扱った論者がどのようなディシプリンに基づいて『教育雑誌』の研究を行っているのかを分類した。分析対象とした51の研究論文は「教育史」、「教科教育」、「教育社会学」、「日本語教育」、「社会教育」、「文学」の6つに分類した。最も多いディシプリンは「教育史」の36件であり、「教科教育」が5件、「教育社会学」が3件、「日本語教育」と「社会教育」と「障害児教育」がそれぞれ1件、そして「文学」が4件であった。したがって、最も論者のディシプリンで多いのは「教育史」であり、『教育雑誌』を歴史的な視点から分析する研究が最も多い。しかしながら、今回の分類においては、教育史研究と教科教育研究といった複数の領域に関わった研究論文がある。具体的には、中井論文（2012）、磯部論文（2012）、西村論文（2013）、小島論文（2015、2016）が挙げられる。これらの論文は、「教育史」研究に分類している。

表3 「教育雑誌」を分析対象とした論者のディシプリン

ディシプリン	件数
教育史	36
教科教育（法）	5
教育社会学	3
日本語教育	1
社会教育	1
障害児教育	1
文学	4

(2) どのような内容を論じているのか

本研究で対象とした論文は教育学研究を種々の視点で分析しており、一般化はやや困難であるが、どのような傾向が見られるのかを分析する。

1つの問題群として抽出可能な領域は、「教育制度・教育政策」に関して論じている論文である。例えば小林論文（2011）は、1940年代前半に進められた教育雑誌統制策の成立・展開過程とその内実を、統制策の一環として設立された国民教育図書株式会社と国民教育研究所に注目して明らかにしており、教育雑誌統制策は国民教育制度に関する情報の「是正」を目的として、文部省主導で遂行されたものであったが、それは文部省による一方的なものではなく、教育雑誌出業者からの協力の下で展開されていた。杉村論文（2015）は、明治期の教育雑誌において、等級制に対してどのような批判がなされ、学級制にはいかなる意義が論じられていたのか、そして等級制から

学級制への移行期において、一斉教授法についてどのような意義があると論じられていたのかを明らかにしている。最後に山本論文(2010)は、1890年代に石川県を中心に発行されていた教育雑誌『北陸教育』の記事分析を通じて、当時の教育界において盛んに喧伝されていた「国家教育」の具体相について検討している。これらの論文は教育史研究をディシプリンとした研究であり、教育雑誌を媒体として、「教育制度・教育政策」がどのように議論されており、それらの議論が実際にどのような役割を果たしていたのかを一次史料としての教育雑誌に依拠して、論じている。

さらに、教育雑誌で扱われた教育実践を分析する論文も散見された。それらは西村論文(2013)、杉山論文(2014)、劉論文(2014)、平野／大部論文(2017)、香川論文(2017)、高橋論文(2018)が挙げられる。そのうち、劉論文を除いた論文は、教育史研究をディシプリンとした研究論文である。例えば西村論文は、国語単元学習の実践報告について、昭和23年から24年までの教育雑誌に掲載された実践報告を基に、どのようなタイプの国語単元学習が存在したのかを明らかにしている。平野／大部論文も同様に、関東大震災とその発生後1年の間に、学校教員をはじめとした教育家たちが何を主張し、どのような実践を企図したのかを、高等師範学校附属小学校内研究会による教育雑誌を史料として、明らかにしている。これらの論文が示しているように、教育雑誌に掲載された教育実践を分析対象とし、学校教員がどのような教育実践を行っていたのか、あるいはその実践の質的变化について明らかにする研究が行われている。

また、学校文化史の領域においても、教育雑誌を用いた研究が行われている。それらは磯部／浅野論文(2014)、府川論文(2015)、筒井論文(2016)、西口論文(2017)、内田／寺谷論文(2019)である。特に府川論文、西口論文は、『教育雑誌』に訳出されたグリム童話について、『教育雑誌』でどのように受容されたのかについて、同様の史料を用いて検討を行っている。筒井論文は、小学校への鍵盤ハーモニカ導入の一端について、音楽教育雑誌に掲載された記事や広告を分析しており、磯部／浅野論文はアメリカで開発されたクレヨンの日本における普及過程を、教育関係雑誌の広告を基に検討を行っている。また、内田／寺谷論文は、愛知県を事例として、教育会雑誌にみる広告の分析を通して、購買者である教員が学校での教育活動や自身の修練に利用する書籍や校具・教具、児童に使用させる文具に関して、どれほどの情報を得ることが出来たのかといった教員や児童らの情報媒体としての雑誌の機能について検討を行っている。これらの論文に共通するのは、教育雑誌に掲載される記事や広告が教員や生徒への教具・教材がどれほど教育現場に普及していたのか、あるいはその情報源として教育雑誌がどのような機能を果たしていたのかに焦点が置かれているという点である。

最後に、文学研究においてもある一定の研究蓄積が見られた。目黒論文(2013、2016)、出木論文(2015ab)はそれぞれ、教育雑誌の小説・雑誌を中心とした文学関連の記事、小説、投稿小説といった記事を中心として、様々な視点から分析を行っている。例えば目黒論文(2013)は、教育雑誌『教育時論』を分析対象とし、明治30年代後半に、児童文学の教育的利用に関する記事が認められるようになり、少年雑誌有害論から児童文学による読書教育への転換があったことを明らかにしている。出木論文(2015a)は、『教育学術界』という雑誌を手がかりに、そこに掲載された小説『寒梅』における教員表象の分析を行っている。〈理想〉の教員像として形象される三之助と『教育学術界』上の他の教育言説上で提示される〈理想〉の教員像との共通性を明らかにし、教員の内面形成を図ってゆく言説装置、いわば物語に変異した教育言説としての同誌の小説の機能面が指摘されていた。つまりこれらの論文は、教育雑誌の中で掲載された「教員像」の表象や教育雑誌に掲載される記事の質的变化について論じており、文学的な観点からの視点と教育学的な視点とを踏まえた研究である。

【本報告書における引用・参考文献】

小林優太(2009)『『教育雑誌』とは何か―教育辞典類・出版統計資料・教育ジャーナリズム史研究の検討

- を通して一」、『教育論叢(52)』、pp. 33-44.
- 山本和行(2010)「1890年代における『国家教育』の具体相—雑誌『北陸教育』の分析を中心に」、『総合教育研究センター紀要(9)』、pp. 1-13.
- 小林優太(2011)「1940年代前半における教育雑誌統制策：国民教育図書株式会社・国民教育研究所に注目して」、『日本の教育史学(54)』、pp. 58-70.
- 中井悠加(2012)「イギリスの国語教育における詩創作指導論の展開：国語教育雑誌 English in Education の調査を中心に」、『広島大学大学院教育学研究科紀要(第二部)(61)』、pp. 143-152.
- 磯部洋司(2012)「用語としての『児童画』の確定に関する一考察」、『美術科教育学会誌(33)』、pp. 79-91.
- 西村啓(2013)「昭和20年代における国語単元学習の研究：教育雑誌の検討を通して」、『教育学研究紀要(59)』 pp. 580-585.
- 目黒強(2013)「教育雑誌における教育的メディアとしての児童文学の発見：『教育時論』を事例として」、『児童文学研究(46)』、pp. 1-14.
- 杉山実加(2014)「静岡県における綴方教育の動向—昭和初期の教育雑誌記事の分析を中心として—」、『早稲田大学大学院教育学研究科紀要：別冊(21)』、pp. 115-125.
- 劉勁聰(2014)「中国における日本語教育の実践教育の取り組みとあり方：広東外語外資大学東方言語文化学院日本語学部の学内実践教育雑誌『雲山四季』を事例に」、『神戸女学院大学論集(61)』、pp. 81-90.
- 磯部洋司／浅野皆子(2014)「日本におけるクレヨン普及に関する研究：大正11年の教育雑誌の広告を中心に」、『美術教育学研究(46)』、pp. 13-20.
- 呂順長(2014)「『教育雑誌』に見る日本教育関連の記事」、『四天王寺大学紀要(59)』、pp. 439-452.
- 出木良輔(2015a)「教育雑誌『教育学术界』の〈文学〉と青年教員：中内蝶二『寒梅』をめぐる」、『国語教育論叢(24)』、pp. 1-15.
- 出木良輔(2015b)「教育雑誌と〈女教員〉の大正—「理想の女教員」をめぐる—」、『日本文学(64)』、pp. 22-32.
- 府川源一郎(2015)「『教育雑誌』に翻訳されたグリム童話：本邦初訳の一五の作品」、『大阪国際児童文学振興財団研究紀要』、pp. 1-13.
- 杉村美佳(2015)「明治期における等級制から学級制への移行をめぐる論調：教育雑誌記事の分析を中心に」、『上智大学短期大学部紀要(36)』、pp. 19-31.
- 小島千裕(2015)「教育関係者のことばの認識と『国語』形成：明治30年代の『岩手学事彙報』にもとづいて」、『国語科教育(77)』、pp. 38-45.
- 筒井はる香(2016)「小学校教育へ鍵盤ハーモニカの普及を導いた楽器製造会社の戦略：1960~70年代における音楽教育雑誌の広告記事に着目して」、『人間教育学研究(4)』、pp. 135-144.
- 目黒強(2016)「明治期における〈冒険小説〉の排除と包摂：教育雑誌を中心に」、『大阪国際児童文学振興財団研究紀要(29)』、pp. 1-11.
- 小島千裕(2016)「小学校教育における方言矯正をめぐる状況：明治30年代の岩手県を対象として」、『北海道大学大学院教育学研究科紀要(126)』、pp. 19-41.
- 平野亮／大部慎之佑(2017)「大正期教育雑誌に見る関東大震災後の教育主張と実践」、『兵庫教育大学学校教育学研究(30)』、pp. 1-9.
- 香川七海(2017)「戦後漢字教育実践史研究・寸描—教育雑誌『ひと』誌上の漢字教育実践を中心に—」、『日本教科教育学会誌(39)』、pp. 45-58.
- 西口拓子(2017)「『教育雑誌』に発見されたグリム童話の明治期翻訳の底本について」、『人文科学年報(47)』、pp. 181-204.
- 高橋直治(2018)「『動く掛図論争』以前の映画教育を再考する：成城小学校訓導・関猛の実践に着目して」、『教育メディア研究(25)』、pp. 37-60.
- 内田純一／寺谷直輝(2019)「愛知教育会機関誌『愛知教育雑誌』の広告分析〔昭和戦前期〕(1)」、『人間発達学研究(10)』、pp. 47-56.